

田原小だより



第684号

令和4年6月30日

台東区立田原小学校

校長 佐藤 貴生

「梅雨晴れと田原っ子」

副校長 地平憲司

衣替えし、梅雨入り（6月6日）してからも、少し肌寒い日もありましたが、いよいよ7月、梅雨があければ夏本番を迎えます。でも、なかなかカラッとはいかない日本の「夏」・・・先日の全校朝会で、「梅雨」について紹介しました。

語源・由来は、いくつかあるようですが、「梅の実が熟す時期の雨」というのが有力ではないでしょうか。読み方については、中国から「梅雨（ばいう）」として伝わり、江戸時代に「つゆ」と呼ばれるようになったそうです。なぜ「つゆ」と読むかについては、子供たちに調査をお願いしました。

そんな中、気象庁は、6月27日・観測史上最速で「梅雨明け」を宣言しました。「戻り梅雨も」といったことも言われていますが、このままカラッとしてほしいものです。

また、子供たちに「梅雨」の話をする際に、梅雨の季節に感性豊かな俳人たちは、どんな句を詠んだのか気になり、調べてみましたので紹介します。

『紫陽花や帷子（カタビラ）時の薄浅黄（ウスアサギ）』 松尾芭蕉

（紫陽花が咲き、今年も帷子《夏着・薄着》を着る季節がやってきた。紫陽花も帷子も同じ薄浅黄色をしているなあ。）

『梅雨晴れや蝸（ヒグラシ）鳴くと書く日記』 正岡子規

（梅雨時の一瞬の晴れ間をぬって鳴く蝸の声を聞くと、夏の訪れを感じるものだ。）

芭蕉、子規の句はいかがでしょう？ 現代・東京の暑さは、当時とは比較にならない厳しさがあると思いますが、梅雨時や暑さ寒さといった季節をただしのぐのではなく、少しは味わえる「ゆとり」をもてると思います。そんな大人の思いをよそに、休み時間の校庭は元気な田原っ子であふれています。

『梅雨晴れや田原っ子が駆ける校庭（ニワ）』 拙句

元気が一番！ ただし、これからは、「熱中症」対策も重視せねばなりません。都区教育委員会からは、「体育の授業時、登下校時、その他の場面においても、十分な身体的距離が確保できる場合は、『マスク』を外す指導をすること」と通達が出ています。水分補給含め、しっかり指導していきます。

子供たちが楽しみにしている「夏休み」まであと3週間足らず、子供たちとともに、よりよい学期末を目指して、教職員一同頑張っています。ご理解とご協力の程よろしく申し上げます。

◆◆◆生活指導部より◆◆◆

生活指導部 高橋 浩之

6月の生活目標は「身のまわりを整え、気持ちのよい生活を送ろう」でした。くつのかかとをそろえていれることや決められた場所に片づけることなどを週の目標として、声をかけていきました。段々と整理整頓を意識して生活する子供たちの様子が多く見られました。7月の生活目標は「学校生活をよりよくしよう」です。感謝の気持ちを伝えることや与えられた役割に責任をもって取り組むこと、正しい言葉遣いで話すことなど学校生活をよりよくするための目標を設定し、声をかけていきます。